

くれない News

和歌山大学教職員組合

[内線]7989 [tel/fax]073-452-3671

[mail]wakumi@cypress.ne.jp

[HP]http://www.cypress.ne.jp/wakumi/

第3号 2011年7月26日(火)

教育学部分会 夕食交流会開催！

7月14日(木曜)の夕方、教育学部分会の今年度初めてとなる職場会が行われました。ここ数年は昼休みを利用しての昼食会が主でしたが、時間があわただしいということもあり、今回は夕食会として企画。組合財政の分会活動費を活用して、夕食のお弁当と飲み物を用意し、2時間近い時間をかけて、日頃ゆっくり話せない学部のあれこれについて活発な議論を交わしました。

テーマは「ここがわからん！これからどうなる？なんか言いたい！」ということで、主にこの数年に赴任された新人教職員の方と、学部長経験者を含むベテラン教職員との間で学部や大学に関するざっくばらんな「質疑応答」と交流を行いました。前学部長からの「教育学部のこれまで/これから」と題する話題提供に続き、一昨年・昨年に採用された教員からの「教育学部の身近なギモン」の報告があり、「裁量労働制ってどのくらい“裁量”の余地があるの？」「給与の級・号はどうやって決まるの？」「成績評価が給与に反映されるっていうけど、どうやって？」といった勤務条件に関する疑問、「学部改組は何のために議論しているの？」といった学部運営全体に関わる疑問まで、幅広く率直な疑問が出され、なごやかな雰囲気の中で、学部執行部の見解や組合の考え方なども踏まえながら様々な意見が飛び交いました。

予定していた2時間はあっという間に過ぎ、未解決のままの疑問点や、組合が新たに取組まなければならない課題も明らかになるなど、全てこの場で「解決」というわけにはいきませんでした。それでも学部教職員にとってとても有意義な場になったこと



夕食交流会の様子。教職員25名の参加となりました。

と思います。未組合員を含んで、参加していただいた若い先生方からはいろいろな疑問が「だいぶ分かった」「教授会での議論が見えてきた」など積極的な感想をいただきました。

参加者は20数名、学部教員が主でしたが、事務系職員、特任教員の方などの参加も得ることができました。

会を企画してくれた教育学部分会役員の皆さま、ごくろうさまでした。

他学部、他の職場でも今後次々にこうした企画を実現していきたいと思います。7月29日には全体企画として「納涼ビアパーティ」を、8月5日には附属中学校を中心として「附属校について考える集い」を企画しています。まだ組合に加入していない方も、ぜひご遠慮なくご参加下さい！

納涼ビアパーティのお知らせ

2時間飲み放題♪

ミニライブあり！？



7月29日(金)18:30~20:30

炭炭 梅原店

和歌山県和歌山市中 296-3

電話 073-452-3195

組合員 : 2,000 円 (臨時職員 1,000 円)

組合員外 : 3,000 円 (臨時職員 1,500 円)

当日入会者および紹介者は無料！！

参加ご希望の方は組合事務所に内線(7989)

または

メールでお申し込み下さい。(wakumi@cypress.ne.jp)

申込締切は **7月26日**とさせていただきます。

附属小中学校前・市駅までバス送迎あり 希望者を募ります！

一方的な冷房停止の通知に疑問あり！

体調・健康に留意して、適切に冷房を使いましょう

7月22日(金)、大学は教職員に右の「依頼」文を送信し、25日～8月10日までの間、10時から17時まで、冷房を停止することを「依頼」しています。これは言うまでもなく、関西電力管内で10%の節電が求められていることに対応したものです。なお、附属学校ではすでに夏休みに入り電力使用が通常より減っているため、対象外となっているそうです。

節電への協力を否定するものではありませんが、組合として以下の点を強調したいと思います。

1. 通知文にも「健康を損なうことのない様」配慮の上実施、と書かれていますが、特に複数の職員が同室で勤務している事務系の職場では、お互いに気を使って無理な我慢をし、結果として熱中症などが発生することが危惧されます。各職場の長には特にこの点に配慮して、教職員の体調・健康に第一に留意し、必要に応じて適切な冷房の使用を行っていただきたいと考えます。
2. 今回の措置は、節電要請自体が急であったためやむを得ないところがあるとは思いますが、どこでどのような議論をした結果出てきたものなのか全く不明です。以下の点を学長および施設整備課に質問します。
 - (1) 今回の措置は本学のどの機関で決定されたのか明らかにされたい。
 - (2) 冷房の一律停止は職員の勤務条件を悪化させるものであり、職員の健康上の問題にも直結する重大な決定である。こうした決定にあたっては安全衛生委員会や過半数代表委員会、さらに本職組への打診・協議が行われるべきであると考えるが、そのような措置はとられたのか。また、そのような措置をとる必要があると認識しているか。
 - (3) 冷房の停止以外に、従来から節電のための努力は行われていたはずである(太陽光発電装置の設置を含む)。そうした従来の取り組みによってどの程度の節電が実施されたのか。今回の10%節電要請への対応として冷房の一律停止が必要である根拠を明らかにされたい。
 - (4) 冷房の停止以外にも、さらに講ずべき節電策はあると考える(昼間の不要な照明を消すための学内巡回を行うなど)が、そうした策についてどのように検討した結果今回の決定に至ったのか、説明されたい。

平成23年7月22日

教職員各位

施設管理責任者
学長 山本 健彦

関西電力管内10%節電要請に対する本学の対応について(依頼)

夏季電力ピークカットにご協力をいただいているところであり、誠にありがとうございます。

東日本大震災後の原子力発電所事故防止による電力不足が全国的に拡大し、関西電力管内においても家庭や企業の全刻形を対象に最大電力に押し10%以上の節電要請が決定されました。

この節電要請は電力不足による大規模停電を避けるため本学においても重く受け止め、電力がピークとなる期間を「節電強化期間」として下記の通り、冷房を一律停止することになりました。健康を損なふことのない様に、また業務に多大な支障とならないよう配慮のうえ実施されますようお願いいたします。

記

節電強化期間： 平成23年7月25日～8月10日

冷房停止時間： 10時～17時

冷房停止範囲： 事務室・研究室等

『夏季電力ピークカット冷房総管理調整計画(奥谷(旧地))』によりグループ別時間帯運転停止による実施を7月25日より、「節電強化期間」として現行グループA～Cを一律停止に変更いたします。

【本件に関する連絡先】

施設管理課課長 木村 徳隆

TEL. (7871) FAX. (7860)

E-mail kimurat@center.wakayama-u.ac.jp

以上

ワダイのひとコマ

去る7月11日に教育学部（日本史）海津先生の「日本家族史」の授業の一環として、和大職組の前書記の馬場潔子氏が招かれ、事実婚についての講義が行われた。

事実婚とは形式婚と対を成す語で、簡単に言えば同棲、昭和演歌の響きでもって言えば内縁関係とでも説明すれば判りやすいのかもしれない。だが講義を聴いていた者は、その軽くて簡単な言葉や、ちゃぶ台をひっくり返してばかりの放浪親父と耐える女を想像してしまうような言葉では決して表せない、一人の女性の生き方に対する決意を知ることになる。

法律で社会的に守られない不便さを乗り越えて、馬場さんは「失ってはいけない最後の砦」として自分の姓を守ってきた。結婚する前もした後も同じ馬場潔子で居たいという一貫した思い、いつも意思表示をされている人間であるようにとの思いが彼女の砦を守らせたのだ。

受講者の一人からの「事実婚は法的に縛られない関係なので、離婚しやすさにつながってこないか」という問いに対し、「結婚は日々の積み重ねであり、離婚はそれを終わらせるもの。紙切れ一枚の重みはまったく意味を成さず、日々の助け合ってきた重みが関係を維持させる。」との返答が心に響いた。

私の周囲にも事実婚を選択した知人が何人かいたが、皆、自由すぎるのか（批判しているわけではなく、職業が自由業だったから）半数以上が離婚している。それで幸せに過ごしている人もいれば、大変傷ついて病んでしまった人もいる。ただのポーズだけではなく、まず自分の力でいつも立ち上げられる環境を整え、相手は自分を尊重してくれているのか、自分は相手を尊重することができるのか、将来子供が生まれたときに真摯に向き合い大人と対等な関係を維持できるのかを考慮しなければならない。

まるで世界平和の条件を書いているようであるが、けだし馬場さんは心から平和を望み日々活動されているのである。

世界を平和に導くにはまず個人から、そして次は家庭から。言動にまったくブレがなく、穏やかに自分の意思を表明できるしなやかな中庸の感覚が素敵だ。講義を聴いていた

学生さんに「ぜひ馬場さんにもっと接近してあの意志の強さと柔和さを手に入れて！」

と伝えたくなる、そんなワダイのひとコマでした。

（書記 西本）

